

ウ 安全面の配慮

誤って一般の人が箱わなに近づかないように、周囲にわなの設置を知らせる看板を設置します。

■侵入防止の看板やロープの設置



また、「わな」本体には、以下の項目を記載した標識を付けます。

- ・住所
- ・氏名
- ・電話番号
- ・鳥獣捕獲許可年月日
- ・許可番号
- ・捕獲目的（有害鳥獣捕獲）
- ・許可の有効期間

(4) 箱わなの餌

ア 餌の種類

- ・蜂蜜（雑蜜、アカシア蜜、そば蜜、蜂の巣、蜜を絞った後の蜂の巣など）
- ・蜂蜜に混ぜたもの（蜂蜜＋米糠、蜂蜜＋ドッグフードなど）
- ・サケ、マスなどの魚
- ・エゾシカ
- ・イカゴロ（イカの内臓）
- ・各種果物
- ・ドッグフード
- ・被害にあった作物

■箱わなに使われている餌の例

蜂蜜（蜂の巣）



イカゴロ



被害にあった作物（スイカ）



近年では、道東地域を中心に、有害鳥獣捕獲などでエゾシカ肉が入手しやすくなっており、ヒグマの箱わなの餌として使用する例が増えています。蜂蜜よりもエゾシカ肉の誘引効果が高いという捕獲熟練者も多くいますが、地域によっては、ヒグマが肉の味を覚えて、家畜の被害が広がる恐れがあるとして、肉類の使用を控えているところもあります。

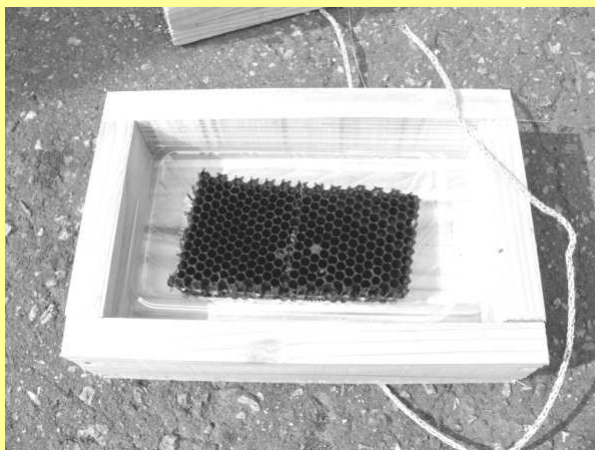
イ 餌の置き方と誘引の工夫

ヒグマを効率的に捕獲するために、捕獲熟練者は餌の置き方や誘引に下記のような工夫をしています。

【捕獲熟練者の意見 2-1】

- ・餌が水に濡れないように、箱を二重にする。

■二重にした餌の容器の例（木の板のふたをして紐でしばる）。



- ・警戒心の強いヒグマに対しては、餌の味を覚えさせることが重要である。最初はわなの外に餌を置き、餌についたら、徐々にわなのほうに近づけていく。わなの中でも手前から奥へと餌をずらしていく。わなの中でも餌をじぐざぐに置くようにするとヒグマが誘引されやすい。
- ・わなの奥、踏み板の前、わなの外の3ヶ所に餌を置く。わなの外の餌は量を多めにして、ヒグマに味を覚えさせる。外に餌を置くことで、奥の餌に執着して周りを掘るなどの行動を防ぐ。一度餌を食べれば、警戒心を弱めて、奥の餌を食べるようになる。

■餌の置き方の例（わなの奥、踏み板の前、わなの外）



(続く)

【捕獲熟練者の意見 2-2】

(続き)

- ・誘引用の餌を高い木にぶら下げる。匂いが広がり、他の動物にも取られにくい。蜂蜜の場合は、ペットボトルに3分の1ぐらい入れて、上部にスリットをつけて、周辺の木の上に吊す。
- ・わなを置く前に穴を掘り、シカの内臓などを埋める。そのうえにわなを置き、地面から腐敗臭がするようにする。その際、クマが周りからは掘れない場所に埋める。
- ・餌にエゾシカ肉を使うときは、最初はわなの外におき、少し腐ってきたら、中に入れてワイヤーにつなげる。少し腐敗するぐらいが良い。
- ・餌に蜂箱を使う時には、蜂が出入りするように巣材も残すようにする。
- ・警戒心が強いクマの場合は、最初に餌につくまでは手袋をする。

■ 誘引用の餌の設置例



ウ 他の動物対策

箱わなでは使用する餌によっては、他の動物が誘引されることがあります。それらによる餌の消費や箱わなの誤作動を防ぐために、下記のような工夫があります。

【捕獲熟練者の意見】

- ・トリガーを深めに差し込み、少し引いただけでは作動しないようにする。
- ・キツネ対策として、入口から少し入ったところに、細い魚網を全面に張りつける。ヒグマは魚網を破って入ってくるが、キツネを防ぐことができる。
- ・猛禽類に餌を取られることと、直射日光での餌の腐敗を防ぐために、わなのまわりをコンパネで囲う。
- ・サケやシカ肉はナイロン製の土嚢袋に入れる。ハエがつかず、交換も楽になる。
- ・大きいわなを使用して餌を高いところに吊るし、キツネなどが取れないようにする。
- ・誘引用の餌（エゾシカ肉の場合）は大きい塊を使うと、他の動物に引っ張られない。
- ・蜂蜜の場合、スズメバチが集まってくるので、金網でふたをする。

メモ ～ヒグマはどのような餌を好むか～

ヒグマは学習能力が高く、餌に対しての執着が強い動物です。そのため、一度味を覚えた餌には強く固執しますが、反面、味を知らない餌については、全く興味を示さないこともあります。ヒグマにも個性があるので餌の好みが違うという捕獲熟練者の意見は、このようなヒグマの習性に基づくものです。

廃棄された牛乳の捨て場にヒグマがついたときに、蜂蜜やサケを餌にしても捕まらなかったが、乳製品であるバターを置いたところすぐに捕まった事例、番屋の冷蔵庫を荒らしていたヒグマを捕獲するのに、缶ジュースを置いたところ捕まった事例など、ヒグマが同じ餌に固執することを示した話は各地で見られます。被害を引き起こしているヒグマを捕獲するために、ヒグマが誘引されているものを餌に使うのも一つの方法です。

一方で、ヒグマと人の軋轢を根本的に解決していくためには、このようなヒグマの習性を考慮し、ヒグマが農作物など人為的なものの味を覚えないように、ヒグマの出没の可能性の高い農地では電気牧柵を設置する、農業系廃棄物を農地周囲に捨てない等、誘引物を管理することが重要です。

(5) 箱わなの見回りと止めさし

箱わなの見回りは、毎日実施し、できれば一般の人が活動をはじめる前の早朝に見回るようにします。安全対策として、扉が閉まっていることが、遠くから分かるような仕掛けをつくることもあります。このことは、わなには必要以上に近づかず、人間の匂いを残さないことにもつながります。

箱わなの扉が閉まっていることを確認したときには、必ず銃を所持してわなに近づくようにします。特に親子のうちのどちらかが捕まったときには、周りに別のヒグマがいる可能性もありますので、周囲に気を配り、慎重にわなに近づきます。

止めさしは、急所である首を狙うようにします。頭や心臓も急所になりますが、絶命するまでに時間がかかることがあります。

格子の幅が狭いわなでは、格子の間から銃身を差し込むようにして撃ちます。ヒグマが動き回ることもありますので、ヒグマの動きが止まるのを確認して、慎重に狙うことが大切です。

■止めさしの撃ち方



格子の幅が広いわなでは、そばに近づくのは危険ですので、少し離れた場所から、狙うこともあります。特にライフルを使用する場合には、弾が抜けて跳弾が生じる恐れがありますので、奥の格子にも注意して狙うようにします。また、周囲に人がいる場合には必ず物陰に隠れてもらうようにします。

(6) 箱わなでの失敗例や危険な事例

捕獲熟練者が経験してきた失敗例や危険な事例を以下に挙げておきます

【捕獲熟練者の失敗例など】

- ・ヒグマが箱わなを外からゆすったため、扉が閉まり、わなごと転がされた。その後、固定して再設置したら捕獲できた。
- ・格子の間から手を入れられて、鉄筋を曲げられた。鉄筋を太くして、格子の幅を狭くした。
- ・ヒグマが入口に体当たりして、入口が曲がってできた隙間から逃げられた。
- ・踏み板をまたがれて餌だけ取って逃げられた。
- ・ヒグマが餌を引っ張ったときに、餌が踏み板に引っかかり、逃げられた。
- ・わなが小さくて、扉がヒグマに当たって逃げられた。その後、大きいわなを設置して捕獲した。
- ・安全装置をセットするのを忘れていて逃げられた。
- ・安全装置がうまくかからず、逃げられそうになった。止めを撃つときに危険だった。
- ・止めさしを真横から撃ったのに、口から弾が抜けたことが2回あった。理由はわからないが、骨に当たって変化したかもしれない。
- ・作業中に扉が落ちて出るのに苦労した。その後はストッパーとして扉の下に木を差し込むようにしている。
- ・わなが傾くぐらいに周りをほられた。その後は、わなの下に垂木を敷くようにした。
- ・親子のうち子がかまったときに、近くで親がうなっていた。

4. くくりわなによる捕獲（狩猟でくくりわなは使用できません）

(1) くくりわなの使用にあたっての注意

くくりわなによるヒグマの捕獲は、箱わなよりもさらに大きな危険を伴います。そのため、有害鳥獣捕獲で使用できるのは、箱わなでの捕獲が困難な場合など特別な場合に限られます。

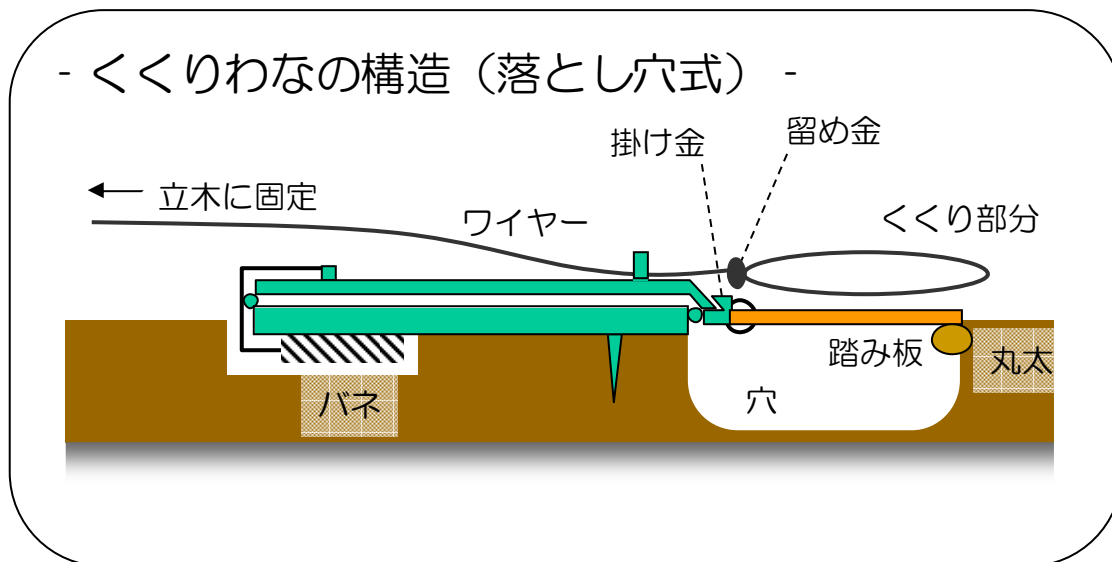
くくりわなで捕獲されたヒグマは手足の一部をワイヤーで固定されただけの状態になりますので、ヒグマによる事故が起きないように安全面については十分な配慮が必要です。設置場所については、一般の人が決して入らない場所を選び、周囲には看板を設置して注意を促します。

また、ワイヤーで手足を確実に固定できるように、使用する機材の仕組みを理解し、設置方法についても工夫をする必要があります。特にワイヤーについては丈夫で信頼できるものを使いましょう。捕獲されたヒグマによる事故がおきないように、見回りの頻度や実施方法、止めさしについても、細心の注意を払わなければいけません。

これらの条件の一つでもそろわないときには、くくりわなによる捕獲を実施すべきではありません。

(2) くくりわなの構造

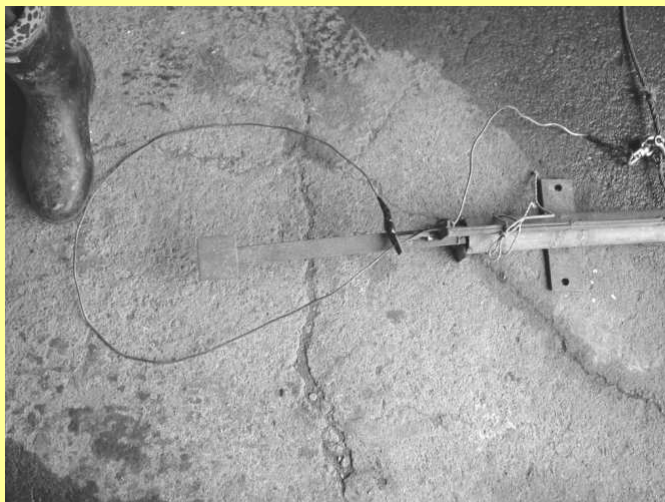
ア 仕組み



【捕獲熟練者の意見】

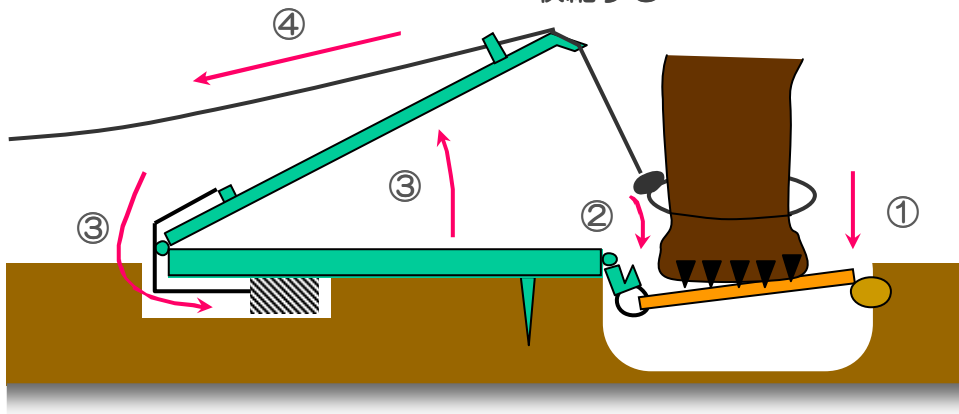
- わなのアームの長さが長いほうがよい。ワイヤーの収縮長が伸びるので、くくりの輪を大きくできる。市販のアームが短いわなでは大きなヒグマを捕獲するのは難しい。
- 踏み板を小さいものにするすることで、誤作動が少なくなる。また、掘る穴も小さくて済むので、ヒグマに警戒されにくい。

■ 踏み板を小さくしたくくりわな



- 捕獲時の作動 -

- ① 踏み板が 踏まれる
- ② 掛け金が外れる
- ③ バネによって 跳ね上げ装置が 作動
- ④ ワイヤーが引かれて くくり部分が 収縮する



■ 捕獲時の状況

